いずみ
発行所
福井県大野郡
和泉村公民館
印刷所　松浦印刷所

奥越電源開発問題

八月十一日朝日小学校で福田代議士らを交えて懇談会

和泉村は去る八月十一日朝日小学校に於て奥越電源開発に就て、福田代議士並に県側関係者を招き先に発表された電発、北電調停案につき懇談会を催した。

県会及び県よりの出席者は笠羽議長、飯田副議長、吉村前電源開発特委長、山崎、藤堂、川崎三県議、総務部長、総合開発室長道路課長、外数名で村民二百名参集。

杉本村長の開会挨拶に次で、総務部長の立入調査要請、笠羽議長の先に県会の北電支持表明の経緯と苦衷を述べ、続いて福田代議士は整停案誕生について仝氏の立場よりの説明と今後現地が有利に展開するよう更に努力を続けると結んで、村長司会のもと直ちに県側への要望事項及び質疑応答に入つたが、殆んど長野ダムと補償問題に集約され、大きな波乱もなく順調に進展された、その要点は凡そ次の通り。

要望及び質疑事項（類似項目は一括した）

① 長野ダムはロックフィルドかセメントか、ロックならダム高一二五米、セメントならば一一四米との事、ロックフィルド式の方が土地利用及び補償交渉に好都合であるが、どうなつているか。

② ダム湖水時の周辺部落は補償にも生活にも大きい不安をもつ、県及び議会は早急に実情を調査し企業者が補償に難色を示した場合肩替補償の決意をしてほしい。

③ 越美北線の延長完工と道路の開発（荒島トンネルも含めて）を強力に推進されたい。特に水没者の不幸を十分考慮して、少くも之を足場に他の利益をかせぐことのない様、尚移住地はどの程度進捗しているか。

④ 当村内に発電所設置の問題はどうなつているか。

⑤ 県は北電に対する附帯事項について会社から確約がとつてあるかどうか、又確約なくとも水利権を許可するつもりか。

⑥ 企業者よりの固定資産税は残村再建費に還元するつもりで県の一般財政に繰入を保留してほしい

⑦ 企業者との補償交渉が納得出来ない場合は、県が責任を以て之に当つてもらえるか。

⑧ 本日知事の列席なきは残念、後日本会場での言明を知事不承認の名のもとに葬り去らぬよう望む

⑨ 残村部落は人口減により従来の生業が成り立たぬ場合が予想される。かゝる場合の育成対策は樹立されてるか、人口減を理由に町村合併等の意図をもつているのでないか。

⑩ 電源開発問題について県及び議会に依頼すべき事項も多々あると思うが、この時は仲介者の立場でなく和泉村の側に立つて接渉してほしい。

⑪ 当村漁組が補償目的で設立されたものゝ如き県側言辞を聞いているが、それは大なる誤りであるかゝる誤解から今次不利益を招くことのない様配慮してほしい。

以上の如くであるが之に対する県会及び県理事者の応答は極めて友好的で大要を順次略記すると次の如くなる。（カツコ内は解答者）

一、ロックフィルドの電発案で行き、高さによる補償も現地と納得のゆくまで話合い残村部落をなるべく少くする（議長、部長）

二、不利益を蒙る以上補償の対象であるから企業者に遠慮なく交渉すればよい、又ダムの高さは一二五米以下でも、こゝまでの前提で不安のない様接渉のつもり、私も十分協力したい（福田代議士）

三、越美線の延長及び道路の改修は県も必須条件として今後も関係各省に強力に働く。水没者を犠牲にして県が有利になろうとは断じて考えていない。荒島トンネルはコスト高で再検討を要する。水没者移住地は十分研究してある（坂井郡）他府県移住も集団であれば協力する（議長、部長）

災害復旧道路は降雪時までには完了の予定（道路課長）

四、今後の問題として要望にとたえたい（議長）

五、別に公文確約はとつてないが企業者は了承している。而し皆さんが納得行く様にしたい（議長、部長）

六、再建に役立つ施策と責任を以て考慮する。

七、十分な補償を得るまでとは行かなくとも、接渉協力は惜しまない、今後も電発特委で検討し、全国の例で最良の形にしたい（議長部長）

九、町村合併は住民の幸福を度外視してまで強制しない。

十、地元中心に考えてゆく（議長）

以上は全く概要記録に止まるが要点を押えた質疑応答で、而かも平和裡に終始し、早期の着工と完工に寄与する所が多かつた。因に翌十二日は企業者と村民の懇談会が行われた。

人事異動

中竜出張所長　山内　守人
税務係長　巣守俊太郎
戸籍民生係　島田　巌
大谷支所　源口　晃恵

九月強調目標

⊙身体を鍛えましよう。

夏も終り気候の良い九月に入りました。山も川も美しい当村の皆様が室内ゲーム、軽スポーツ、リクリエーション等により強い身体に鍛えましよう。

八月十二日朝日小学校における北電、電発との懇談会要約

八月十二日北電側五名、電発側三名を招き、朝日小学校で午前中電源開発について懇談会を開催。村長、ダムの湛水面を五〇〇米にすること、村内に発電所をつくることの二点を要望して来た会社側の回答は一応五六〇米まで補償をする、発電所は出来ないとと思うが調査して見て良い結果が出れば出来るかも知れないとの報告を終り、両社の挨拶の後質疑応答及び要望に入つた

◇越美北線についての考え方

鉄道については我々も強く希望しているので両社力を合せて今後とも促進に協力したい。

◇奥地部落と基地について

具体的にはまとまつていない。

◇長野ダム関係は電発でやるのかまだ其所まで話し合いが出来ていないが、原則的にはそのようになるのではないか。

◇補償は電発でやつてほしい。

北電さんが安いという事はないと思うが、充分話し合つてやつていきたい。

◇村内商工業者の優先利用

ダム目的のものと本当の犠牲者に対するのとは断乎として区別する。生きた補償をしたい。

◇治安対策について

防犯の対策については地元の方の協力を得て万全を期したい。労務者は充分質の良いものを選んで使いたい。

◇五六〇米の上に危険水域を取るか

今の所五六〇米で充分と考える

村民の声

「いずみ」に望む

近頃の新聞報道は、誠に悲惨な暗いものでおゝわれている。国際的にはベルリンを囲んで東ドイツを中心とするアメリカソ連の過熱状態、国内的では釜ケ崎の暴徒問題は暴力団の裏面支配力の一断面と見てよいだろうし、三面に至つては水難、輪禍、殺人、悪疫等々命取りの黒い霧で一ぱいである。こんなに悪の巷ばかりではあるまいにどうしてもつと明るく、温い一面を反映してくれないのか、週間誌に至つては表現が克明なだけに悪寒を感ずることさえある。諺に「悪事千里を走り、孝子その門をでず」とか言うが、人間悪は電波の如く敏速に拡り、善行は誰も口にしない、という昔乍らの、生ける者の悲しい悪競争の側面をさらけ出しているのだろうか。

こゝにFという人があつた。それは過ぐる伊勢湾台風直後の事である。浸水地域は一面砂泥の海と化し、罹災者と否とを問わず皆が血まなこで当場のしのぎに懸命であつた。その繁忙のさなか、朝日小学校の校庭に堆積されたうず高い泥土を、手車で只一人黙々と運び出している人を見た、之がFさんである。誰に頼まれたのでもない、黙々広い校庭に只一人の作業は蟻の運びにも似ていとおしいものであるが、そんな事は全く意に介せず。

「ちつとでも出せば、そんだけ早う運動場がようなるでのう」とつぶやき乍ら、次の日も、又次の日も、進まぬ作業を気にもせず、只黙々と奉仕されるその姿は誠に尊いものであつた。Fさんの頭の中は、こゝで嬉々とたわむれ遊ぶ子供の姿で一ぱいだつたのだろう。

当時の新聞社は之を知つていた然し記事にしなかつた。勿論Fさん一人で運動場の復旧が成つたわけではない。各方面の奉仕隊の活躍によつていち早く立ち直つたのであるけれど、だからと言つてFさんの行為が忘却されてよいものではない。——善行はこのようにして埋れてゆくものか、「いずみ」はこんな所に明るい人生を見出し村の先導となつてほしい。

◇

連年の水害がわりか？

北美濃地震

当村は連年の水害でなやまされていたが、本年は天候の良い日が続き、お盆も三年目にやつと普通のお盆が出来たと喜び、お盆気分のぬけぬ八月十九日午後二時三十分、ゴーという音と共に大地が左右にゆれ皆の肝をぬいた。

北美濃地震は福井震災以上の大型地震といわれるとおり二日間以上にわたりゆれ続けていた。

さいわい当村は人畜、家屋等には被害はなかつたが、国道岐阜—金沢線を始め県道石徹白線、各地林道等は交通不能となり他にも小さな被害はあつた。緑につゝまれた当村が地震で被害が出るというのも今まで多くはなかつたのではないでしようか？

（写真は岩石の崩壊で埋没した道路）

大谷小学校に於ける電源開発会社との懇談会要約

「用地部長のあいさつ」

私は電源開発会社の用地部長です。近くのミボロダムも手がけ、地元の皆様の御協力を得ていましたが、今日の状態になつた事について誠に申し訳ない。電発の使用は開発の重要地であるが、国内九電力会社が種々の面から開発出来ない場合それを開発する規定になつている。この開発は北陸電力会社があくまでもやられると言われるので、やむを得ない結果になつたので御許し願いたい。村長さんより強い申し出があり、ありましたので北電と協議し、三百六十米までは水面がどうあろうと、用地として求めたい。

▲池の面の高さ

電発の計画であつたら導水路が短いから高くし得る。しかし北電計画と協力して行う場合、池の面を高くすると水圧が強くなり導水路の強化が必要である。長い導水路を強化するにはコストが高くなるのでむつかしい。

▲立入調査の目的と期間

今までの調査は計画を立てるためのものである。そのため机上調査の部面もある。今回のは審議会へ工事着工する許可を得るものである。従つて骨材等の工事材料が最底コストで得られるか、土地、造営物についても現地の姿を確認したい。付替道路の調査、補償面の調査もしたい。期間は十二月審議会にかける場合、十一月一カ月は通産省など役所と話し合う期間が必要なので、十月末までに現地調査を終りたい。

▲奥地残存部落の補償

これから現地をよく調査して取りきめたい。補償する場合、現在予定している補償総額の追加分としてプラスする。この場合コスト高となり制限された電気料金と採算が取れないことが生ずれば、改めて計画をやり直さねばならない。この開発に奥地残存部落の多いのは特殊のケースである。従来の例では船の連絡設備を行つている所もあり、冬期間外科医を設置している所もある。

▲危険区域買上げ

少ない所で一米の所がある。しかし、何十年後に被害が生ずるか否かについては調査した結果でなければわからない。技術面から必要する高さを買上げたい。

▲基地や交渉の主体地

電発は全国に工事地を持つため一々東京の本社へ伺いを立てることはしない。すべて現地で解決する。許可が得られれば、明日にでも責任者を派遣する。どこに事務所を置くか只今他の者が調査している。福井に置くのは連絡事務所程度である。

人のうごき

【出生】

荷暮　嶋田　弘志　末男三男
上大納　土井幅重美　邦栄長女
下半原　石神　龍彦　勇作次男
上大納　谷口　智司　新作三男
川合　末永　明美　彦治長女
朝日　三島　啓二　啓一郎三男
中竜　宗信　隆
中竜　吉垣　優治　保　長男
上大納　貝森　衛　定美長男
米俵　池尾俊一郎　俊雄長男
上半原　三島　佳苗　稔　長女
東市布　酒井　千鶴　次郎長女
下半原　中森　俊長　利久長男
朝日　道岸　美幸　福男次女
大谷　池田　重則　貞夫長男
下半原　中森すみ代　輝二長女
中竜　山本　稔　俊治長男
中竜　持田　朋子　尋幸長女

【婚姻】

○愛知県丹羽郡岩倉町　森　幸夫　米俵
○大谷　池尾美恵子　池尾八千代
大野市五条方　水上　義雄
○名古屋市南区　小野田　一
上半原　田中　藤枝
○岐阜県郡上郡大和村　森　治　荷暮
若山百合子
○大谷　宮原　長夫
下半原　木島　芳子
○持穴　小沢　重雄
愛知県一宮市奥町　高島　信子
○持穴　小沢　よね
野尻　佐藤　孝夫
○下半原　中山　森広
岐阜県大野郡白川村黒木登紀子
○岐阜県大野郡白川村木地光峰一
箱ケ瀬　田中ふくゑ
○広島県安芸郡江田上町向谷明照
上大納　登　しのぶ
○朝日　山本　康男
栃木県日光市　佐藤　房子
○大野市御領　伊藤　正一
下山　嶋　節子
○岐阜県加茂郡白川町小井戸昭利
米俵　大家美代子
○箱ケ瀬　池田　藤助
名古屋市西区　小森　克代
○野尻　山本　義樹
新潟県両津市　渡辺キミエ
○持穴　阿部健太郎
朝日　三島つや子
○三重県四日市市　山下　正一
鷲　大町千代子
○東市布　酒井　幸良
岐阜県郡上郡白鳥町　石徹白春美
○中竜　円平　博親
中竜　福田　厲子

【死亡】

東市布　田中　専治　四九才
伊勢　若山　雅子　六才
東市布　川端五七三　六三才
大谷　池尾　正弘　二三才
野尻　佐藤　昇　零才

農業基本法のあらまし

◉農業基本法の必要性

近年日本経済は急速に成長し、その中で特に伸びたものが鉱工業サービス業です。そして農業がどの産業よりも一番遅れており、そればかりか他産業の高度成長の邪魔をしております。

この遅れた農業を他の産業にあまり遅れないようにするために、国家として農業の進むべき道、農業憲法とも云う法律により農業施策を行うためです。

最近農業の「曲り角」とよく言われますが、それは一つは「農産物消費構造の変化」一つは「他産業への労働力の移動」です。国民所得が多くなつて消費するものが高度化し、でん粉質食糧は売れなくなり肉類、果実、高級野菜等が売れるようになり、穀類中心の日本農業に改革をせまっています。

次は鉱工商業等の産業がいちぢるしく発展し労働力が増大し、農業人口がその方へ吸収されていきますが、もと〳〵零細規模で悩んでいたのですから、農業人口の移動につれて土地の規模を改革し、機械化集団化を進める時期に都合がよいわけです。池田総理の農業人口六割減少論もここから出ているわけです。

◉その目標と達成

一つは農業の生産性＝他産業との生産性（生産の伸び）の開きが是正されるよう農業の生産性を向上させること＝経済成長率見通しでは鉱工業生産が昭和三三年を一〇〇として昭和四五年には三三七と三倍以上になるのにくらべ、農林、水産生産は同じく昭和三三年を一〇〇として昭和四五年に一四九と一・五倍しかならない。次は農業従事者の生活＝成長率のたかい他産業従事者と同じような生活が出来るように保護することになつています。

この目的を達成するためには「農業の自然的、経済的、社会的制約による不利を補正する」ことを規定しています。大変ややこしい文句ですがこれは、農業は自然を相手に生産しますから気候、災害等の不利な条件の中でやらねばならず、機械化も簡単に出来ません更に零細多数ですから売りさばきもスムースに行かない等、自然、経済、社会的各方面に非常に不利な状態です。この不利な点を法律によつてカバーし他産業と同じように成長していくように土地改良に助成金をだすとか、農産物の値段を安定させて生産を安定するとか等の施策をし、農業生産の選択的拡大＝輸出を考慮して需要の多い物を多く生産するようにする。農産物の価格安定と農業所得の確保＝農産物価格を安定させて（現在、米、まゆ）農業所得を確保する。人間の養成及び就業＝新しい農業経営の担い手に技術教育を充実させて農民の資質を向上させ、農村に立派な人材が残るようにし又他産業へ就業するものに対しても職業教育をして就職に不安のない様にする等、八つの事項を規定し、農業生産については、需要生産の長期的な見通しを立てて生産の道標を示し土地水利の調整、災害時の損失の補てん等をすることにしています。

◉農業の構造

自立経営＝耕地は労力や機械があれば広い程よいですが、現在基本法の一応の目標としては、労働力三人で耕地二・五ヘクタール年間粗収入百万円以上の自立経営農家を育成するように規定されています。耕地を集団化するための規定では耕地を売りたい人、買いたい人をそれ〴〵の立場から保護しばら〳〵になつている耕地を集めて拡げられる様にし、現在の農地法では一戸当所有出来る農地を内地の場合三ヘクタールに制限していますが、これでは耕地を拡げるのに不都合なので農地法を改正するようになつています。

一方農業より他の産業に移つた方が収入が良くなる人は土地を売ればよいわけですが、此の場合先祖伝来の土地は手放したくないと言う人には不在地主を認めようとしています。つまり農業をしばらく休む人のために信託制度＝農地を貸しつける制度をつくろうと言うのです。農地の貸出、売買事業を農協がやるようになつています

又自立経営の出来ない人で農業をやりたい人には協同をすすめるように、耕地や労力を出しあつて農協などの共同施設を利用したり共同作業をすすめています。又山村の多い日本農業に林業と組合せた自立経営を育成するとか、農業を営む法人に林業の兼営を認めること等も規定しています。

最後にこれが実現に関してはまず予算措置がこうじられ、関係法の改正成立が出来なければなりません。

県下消防操法競技大会優勝

第十一回県消防操法競技大会は七月二十六日午前八時半より小浜市小浜中学校グランドで行なわれ県下各地区の代表選手が集まり、自動車ポンプ十八チーム、小型動力ポンプ十四チームと消防団員二百人余が参加し、入場式が終り熊谷大会長及び北知事大会総裁の訓示、続いて今泉小浜市長の歓迎の挨拶後、選手代表の宣誓があり後操法競技が開始された。

炎天のもとに各操作員は汗みどろになり日頃の猛訓練の成果を充分発揮し、遂に我が和泉村が第三回目の優勝旗を獲得した。

優勝第一位　和泉村消防団
次勝第二位　金津町消防団
第三位　宮崎村消防団

今こそ『穴馬』の名が恋しい

穴馬の名前が地図の上から抹消されて昭和三十一年に和泉村が新しく誕生した。合併促進法に基く強力な指導と慫慂もあつて当時の上、下両穴馬が解村となつた次第である。しかし此の事はさて置きそれ以来寝ては夢、起きては現、幻のという言葉にも似て、新村建設計画を恋人の如くしつかり胸に抱き締めていよいよ気脈も相通ずる仲となり、ちよいとこゝらで新婚家庭をといつた具合で基礎工事に手を出すや途端に、天から降ったか地から湧出たかと云いたい位突発的に奥越電源開発の計画案が発表された。以前にも、谷戸口附近にダムを作ると云う構想のある事を一部の村民は聞いた事もあるようだが、当村は夢物語りのように思い聞流していたが、今回は容易ならざる事態である事を悟らなければならなかつた。幾度眉に唾をつけて見ても、股をつねつてみても夢でもなし幻でもなかつたからである。南利明ではないが一時的には「カツクン」と来てしまつた。

それもそのはず、三百戸以上の戸数が水没し、而も残つた村はダムとダムの間に狭まれたり、ダムの周辺に点々と取りのこされたり鉄道問題は宙に浮く等、ほんまに無茶苦茶でござりまするわと云つた有様で、受けた衝撃正に村内惑乱のるつぼと化した。此の罪誰にありや……。これも公共事業であるからである。「忍従」なる文字の意味と使い分けに関する限り、終生忘れ得ないであろう。

色々な課程を経て今日に至るまでには行政官庁当局にもお百度を踏み、会社も何回か掛け合つた。しかしいずれも暖簾と腕押し状態で終始したけれども、おらがくにさは「日本で現在のこされている地点では、唯一の電力開発地点であつて、現在の電力需要の（のび）から絶対開発させてもらいたいのだ」これは率直に何度か聞かされた。おそらく今からは日本一の補償が支払われ又日本一の和泉村が再建されるであろう。

最後に総てをかけ胸のハートに両の手を当ててようやく高鳴りがしずまりかけようとした時、伊勢湾を襲つた台風の余波は我が村史上最高の集中豪雨を降らせ、これが鉄砲水となり濁流となり、深夜の村々を我が物顔に飽くなきまでに荒れくるい、実に阿鼻叫喚の一夜であつた。明くれば二十数名の尊い人命が奪い去られた事実を知らされた。道と名の付く処総べて寸断され、家屋の流失破損耕地が白河と化したもの等々。朝な夕な合掌礼拝する神仏に「少しばかりものが申しとうございます」とは理を積まざる者の愚痴たわごとかも知れん。ヘリコプターの食糧輸送開始と共に復旧作業が着々と始められた。ようやく村民も生気を取り戻し、来村された建設大臣の政府は禍を転じて福となす復旧を行うの一言に希望を托し、復興の掻音に胸をふくらせたものである。

斯くして復興の見通しその緒につくや、又々明けて三十五年ありがたくもない大洪水の洗礼を受けねばならんとはああ無情〳〵、儚いものよ、その名は汝和泉村……。親に先だつ不孝な子供が死ねばその罪はさいの河原で積めばくずされる石垣積をさせられるとかその云い伝えに似てか、総べてが元の木阿弥となつた。驚きの声すら出ない。出すのが馬鹿くさく感じた者もあつたろう。人間は勝手に和泉の名に恥じない「みずうみ」を作ろうとするし、深い〳〵お慈悲を垂れ給うものと信じた神仏の力も及ばなかつた、その原因？

此の地から飛騨の地に飛んだ神馬に因んで名付けられたと云う穴馬の名を捨てて水に縁深き和泉としたからではなかろうかとはちよい〳〵聞く言葉であるが左様な事はなかろう。なぜか？

大震災の際は松岡まで大被害を蒙り、その先の志比は殆んど被害がない。曰く「地震には岩である山付の処は大丈夫なんだ」てな事を過去の実績に徴して信じていたしかしそうではなかつた。御母衣で使用したショベルは一トンの岩石をすくつて自動車に積むことさえ感心させられるのに、地球全体をゆさぶる地震の法善壁はそれでも八月十九日の地震で動いたらしい。和泉村はやはり交通途絶状態である。訳もなく事あるごとに穴馬の名が恋しい。

郷土のゆらい

悪源太義平　忍居のこと

平治物語に「源義朝とこ（青墓）にて宜いけるは、義平は山道を攻め下れ……悪源太承るとて未知らぬ飛騨国の方へ山の根につきて落ち行かれ……飛騨国に下り給うに勢の属く事斜ならず、然るに義朝討たれ給いぬと聞えしかば、皆心替して我身一人になりぬれば自害をせんとし給いしが、徒らに死なんよりは親の敵の清盛父子が間一人なりとも討ちて無念を散ぜんと思い返して都に上り六波羅に臨み親い給う」と。

続古事記証に「義平は源義朝の嫡男にして十三才にて鎌倉に下り十九才にて都に上り平治の戦……絡に石山寺にて生捕られ、六条河原に於て難波三郎に首を斬らる、時に年二十二才」と。

絵図記、類衆国誌、城迹考等に「落人の時悪源太義平朝日山の内庄ケ原に在り」と。尚其の他の古文書にも出ている。要するに平治の乱に十九才の義平が待賢門の戦に大奮戦した事は有名である。しかし戦い利あらず父子十数騎飛騨美濃に落ちのび、兵を集めたので安してある。原の函の損し壊れたあるが、父義朝病気となり、義平のみ油坂峠を越えて穴馬に来て庄ケ原に約二年いたのである。

時に朝日助左ヱ門の娘、義平の妾として懐胎したが、父義朝訴える者ありて討たれたとの知らせ聞き、太刀、青葉の笛其の他かたみの品を残して都に上り二十三才首を切られたのである。

帰雁記其の他に「此所に一人の女子あり、生れざりけるうちに捨て上落し玉うとて守刀と一管の笛を残せり、青葉の笛という。今も戦まとしき民にかのゆかりなりというもの有り、刀も笛も持ち伝えたり」とある。笛は今熊野神社に奉安してある。原の函の損し壊れた板に左の文字を読むことが出来る

（表）平治二年正月二十一日より
（裏）御はたはくまのの御やしろにおさまらせ給う
これもよしひらの御はたしそんうちの神とかつこう申すべし
（表）朝日山□□山神
朝日のせんそあくげんたよし
ひらの
御ふえ末代のしそんにおいて
うちの神たるべし

城迹考に「同村八幡宮に義平の笛あり」と、もと八幡宮に奉安してあつたが神社合社の時、熊野神社に遷つされた。刀は家宝として朝日家に代代伝えられている。

ヘリコプター不時着

北美濃地震の状況取材中のNHKヘリコプターが御母衣現場から小池へ向う途中、雨のため飛空出来ず東部中学校校庭に不時着した親切なパイロットさんは見物にかけつけた村人や児童生徒達に構造など説明して聞かせた。

児童のさくぶん

七がつ二十七日にち

日進小一年　なかやまきよし

きようからなつやすみ。あさ六じにおきて、らじおたいそうにいきました。かみにはんをおしてもらい、らじおたいそうをしましたはしりやんこもしました。

夏やすみの一日

日進小二年　三島　京子

きようなごやのちいちやんからはがきがきました。「おぼんにはいつしよにあそびましよう」とかいてありました。すみちやん、かずちやんもくるそうです。

みんなでなにをしてあそぼうかと、かあちやんにきいたら「そんなことわからん」といいました。わたしはねどこへはいつて一人でかんがえました。

七月二十八日（金）

日進小四年　長谷川ますみ

火の用心にまわつていると、お宮で「ゲロゲロ」という鳴き声がした。ぼくたちはおそるおそるお宮へはいつてみた。大きなガマがぼくたちをにらんでいたので、ぼうでおしりをたたくと、はらから水みたいなものを出してどこかへにげていきました。

かじか

九頭龍の清流、せせらぎの音に和しかじかの声を聞くときは昼の暑さを全く忘れさせた。あの流汗拭ういとまない夏は去つて颱風の時期となつた

▲天災は忘れた頃に来るというが、和泉村の水害はそうでない。連年やつて来て復旧なにものぞとせせら笑うように去つて行く。▲そのたびに人命が失われることは悲しいことである。なくなられた人達の冥福を祈ると共に三たびこうしたことが起らないよう充分気をつけたいものである。▲人命が失われることに今一つあるそれは交通事故である。道は歩くものとされ、唯一つの速力を持つものは自転車であつた。それでさえ長距離行は家人が門前に見送つたものである。▲この頃は一粁の道を歩く者も少く、しかも自転車は子供、女、老人の使用物となり戦後十有余年、交通機関は原動機付きと変つて来た。和泉村にも二輪、三輪、四輪の所有台数がぐんぐんと増して、それに村外からの通行もはげしくなつた。▲世の進歩発達はさることながらこれによる障害は年々多くなる一方である交通事故は新聞の三面記事をにぎわす。他所の問題でなくなつた。すでに足元にせまつている。▲しかも交通事故については世人は不可抗力とか、前世の因縁とか思つて半ばあきらめていはしないか。そうとしたら大まちがいである。人災である。各人の注意によつて未然に防ぐことが出来る。▲世はスピード時代とは言うものの冥土行きまでスピードの波に乗つてはしくない。これをあやつるもの、自転車に乗るもの、一秒間の横着心を起さず気をつけよう。何よりも大切な人命と人体の災害を防ぐことに万全を期したいものである▲犬死するなかれ。

編集室

十月一日発行に登載いたします村民の声の原稿募集をいたします。
字数は五〇〇字以内
締切　九月二十日
村民の皆様の御意見を、どし〳〵お出し下さい。